



福井県

生き物でにぎわう身近な自然の保全再生を目指して

福井県では、現在、新たな環境基本計画の策定を進めています。とりわけ自然環境については、開発の継続や外来種の侵入、農業者の高齢化による里地里山の手入れ不足、地球温暖化などに伴い、多くの生物の絶滅が進む中で、地域における生物多様性の保全が喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、生き物でにぎわう身近な自然を守り育み、健全な生態系から得られる自然の恵みを持続的に利用するための施策を実施していきたいと考えています。

具体的には、平成20年度から、「水鳥と共存できる田園環境の再生」を目指し、県下5つの地域で、ふゆみずたんぼと水田魚道の普及啓発・実施を図り、水鳥が休憩などに利用する湿地(水田)の保全に努めることとしました。こうした活動が地域において持続的なものとなるよう、生物を活用した農産物のブランド化にも



ふゆみずたんぼに飛来したコハクチョウ

取り組んでいくこととしています。

また、県内の代表的な湖である三方五湖は、平成17年にラムサール条約湿地に登録されていますが、近年、漁獲量が大きく減少しています。そこで、県内外の大学等が連携し、湖内の生態系の上位に位置する天然ウナギなどをシンボルとして、湖全体の生態系に関する調査研究を実施するなど、湖の豊かな自然環境の保全再生に向けた施策を充実、強化していくこととしています。

さらに、かつては県下のどこにでも見られたホタルやメダカなどの生き物を、今も身近に見ることができるよう、県民一人ひとりが身近な生物の生息環境を守り育む活動を、県民運動として、展開していくことを検討しています。



小学生による魚道作り

福井県安全環境部自然保護課 ☎0776-20-0305

池田町

町を元気にする、地域資源連結循環型社会への取り組み

人口3,428人の福井県池田町は、足羽川上流の小盆地にある小さな町であり、「地域資源連結循環型社会」をテーマにした環境向上に取り組んできました。「連結」という語には、人の力や知恵やこころの結合を大切にするとのお思いが込められています。環境への取り組み=まちづくりが池田町の取り組みの特徴です。

平成11年に福井市に出店した「池田町ショップ こっぼい屋」は、池田町の女性達が家族に食べさせるために作ってきた野菜を持ち寄り販売するお店として開設されました。手間をかけ愛情をかけて育てた野菜は大人気で売れてゆき、一人ひとりの出荷量は少なくとも、みんなが力を持ち寄った(百匠一品とよんでいます)結果、たくさんの商品と笑顔があふれるお店を作ることができました。何より、女性達のできるという実感と自信が生まれました。

また、こっぼい屋での人気の大きな秘訣が、(私たちが価値あると思っていなかった)、池田町の豊かな自然であると気づき、翌年には「ゆうき・げんき正直農業」(有機栽培の認証制度)に取り組みました。さらに14年度からは、生ゴミと畜産糞尿を混合して堆肥「土魂壤」(どこんじょう)をつくる「食Uターン事業」が始まり、週3回の生ゴミ回収を目的としてNPO法人環境Uフレンズが結成されました。

地域の人が自ら動いて価値(堆肥というこれまでにな

かった池田町の資源)を生み出す動きは、どんどん広がり、環境向上基本計画の策定、菜の花プロジェクト、エコポイント事業、資源再生アタック100運動、セイタカアワダチソウ撲滅運動などがスタートしています。

今、池田町は、廃油ろうそくを使った「いけだエコキャンドル」に取り組んでいます。「ゆらめく炎」には、人の気持ちを揺らし変えていく力があります。町内、日本国内、さらには世界中の人が集い灯りにともせば、本当に大事なこと(すなわち、環境、平和、地域、家族)にともに気づき、

守るための行動の変化を起こせると思っています。池田町という場から、すてきな環境運動が始まるのが、私たちの夢です。今年(2023年)は9月27日(土)あなたのお越しをお待ちしております。



大人も子供も準備します



メインアートである、キャンドル畑「愛」

福井県池田町役場総務政策課 ☎0778-44-8004